

女性の気付き 生かそう

仙台でシンポ 被災地活動を回顧



女性の被災地での活動や気付きが共有されたシンポジウム

女性の視点で東日本大震災を考えるシンポジウム「女性たちが語る震災からの10年」が、仙台市青葉区のエル・パーク仙台であった。被災者支援などに取り組んできた4人が、支援活動や今後の展望について報告した。

南三陸ホテル観洋（南三陸町）のおかみ、阿部憲子さんは、震災後から続ける語り部バスの活動や子どもへの学習支援などを紹介。来場者に「女性が明るくなれば会社も明るくなる。主体的な気持ちで行

動してほしい」と呼び掛けた。

被災地で母子向けのサロンを開くNPO法人せんだいファミリースポーツ・ネットワーク代表理事の伊藤任佐子さんは、被災者を支援する側も悩みをため込んでいると指摘。「必要な支援を自分の言葉で伝えられる『受援力』が大事」と語った。

シンポジウムはせんだい男女共同参画財団が主催し、13日に開催。約70人が参加し、約30人がオンライン視聴した。